

すすむし

Vol. 15. 463 (通巻97号) 12. 15, 1965

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町 倉敷昆虫館内

本部 (倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内)

本年採集した西大寺市のスズメガについて

赤 枝 一 弘

本年8月以来西大寺市内の夜間採集を思い立ち市内の水銀燈をまわってみた。その結果西大寺市では吉井川上にかかる河本橋(准川橋)の水銀燈と、そこから50mほど離れた西大寺市水源池の水銀燈に多くの蛾が集まることが分った。環境としては河本橋の場合は平凡な河原があるのみで、また水源池はうしろに小高い丘をひかえている程度で、あまりいいとはいえないが、河本橋にはスズメガが集まり、水源池には小型の蛾がかなり集まることが分った。前者はらんかんにとまり、後者はコンクリートべいにとまり、採集には好都合

である。今回そのうちのスズメガについてのみ発表させてもらう。

8月8日以後、大体一週間単位で10月13日まで11回両地へ行き、その間に記録した種は15種である。この発生状況を表にして示すと次のようになる。

この表で分るように9月に入ると急速に個体数が減少し、10月に入ってからはまったく見られなかった。

この調査の結果市内未記録種3、県内未記録種1を記録することができたが、その他比較的少な

| 種名 | 8月 | | | | | 9月 | | | | | 10月 |
|----------|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 8日 | 10日 | 20日 | 25日 | 29日 | 3日 | 11日 | 19日 | 23日 | 28日 | 8日 |
| エビガラスズメ | ◎ | ◎ | | | ◎ | ● | | | ◎ | ◎ | |
| シモフリスズメ | | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | | | |
| ※クロスズメ | | | | | ○ | | | | | | |
| ※モンホソバズメ | | | | | ○ | | | | | | |
| ※クチバズメ | | | | ○ | | | | | | | |
| モモズメ | | | ◎ | ◎ | | | | | | | |
| ウチスズメ | | | ○ | | | | | | | | |
| ウンモンズメ | | | | | ○ | | | | | | |
| クルマズメ | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | | | | |
| ホシホリジャク | | | | | ○ | | | | | | |
| セスジズメ | | ○ | | ◎ | | | | | ◎ | | |
| コスズメ | ● | ● | ● | ● | ● | ◎ | | | ○ | | |
| キイロスズメ | | ◎ | ● | ● | ● | ◎ | | | ◎ | | |
| ベニスズメ | ○ | | | | | | | | | | |
| ※ヒメズメ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |

※は市内未記録種 ※※は県内未記録種

○ 1頭のみ ◎ 2~5頭 ● 5頭以上

いと思っていたクルマズメはコスズメに次ぐ多産種であることが分った。また昼行性のホシホウジャクも記録できたが、最近の水銀燈では昼行性の種もかなり引きつられるわけで今回の調査でもギンヤンマ、ニイニゼミ、アブラゼミ、等の昼行性の種も飛来していた。

市内未記録種

○ *Hylotus caivineus caivineus* BUTLER
クロズメ 1965・8・29

西大寺市水源池

本種は従来、県中北部の種とされていたが、都窪郡吉備町で採集され、また本年倉敷市でも採集された。この結果少ないが県下全般に産することが分った。

○ *Oxyandryx schauffe hergeri* BOHR et Grey

モンホソバズメ 1965・8・29

西大寺市河本橋

本種は従来県内生物目録の神庭の記録が、1例しかなく、ホソバズメ属でも特に少ない。(岡山県の蛾 2 榎本)といわれているが、本年倉敷でも採集され、また榎本氏も採集されたと聞く、従って発表された記録としては県下2番目となるが、実際には4番目と思われる。

○ *Murumba sperchius sperchius* MERMELERIS
クチバズメ 1965・8・25

西大寺市水源池

本種は各地で採集されているが、西大寺市からは未記録であった。

○ *Deilephila askoldensis* CBERHR

ヒメズメ 1965・8月8日,10日,20日,各1頭

本種は県下未記録種である。本種の分布については最近の図鑑にも、ただ北海道、本州、九州では非常に稀、の記載しかないが、色々各地の採集記録等を見ても出てないので、かなり稀なものではないかと思われる。またくわしいことは分らないが従来は山地での記録が多いのではないかとも思われる。このように南部の平担地で、しかも何でもない河原べりの水銀燈で、3度も連続して採れたのは珍しいと思う。なお榎本氏を通じてスズメガの研究者である山本義丸氏に照会してもらったところ、おろらく中国地方未記録であろう、とのことであった。榎本、山本、両氏に紙上から深謝いたします。なお表に表われた以外の市内記録種は、オオンモフリズメ、ブドウズメ、ホンヒメホウジャク、ホウジャク、クロホウジャク、トビロスズメ、オオスカンバ、メンガタズメ、の8種である。

参考文献

赤枝一弘 西大寺産スズメガ目録 すずむし

v01・5, NO.10.1955.

赤枝一弘 西大寺産スズメガ追加 すずむし

v01.6. NO.3. 1956

榎本精二 岡山県の蛾12(スズメガ) すずむし

v01.14. NO.1. 1964

榎本精二 1964年同定会の蛾について、

すずむし v01.14. NO.3. 1965

岡山県下のクロツバメシジミの越冬と発生回数について

赤 枝 一 弘

The hibernation and annual life cycle of Tomoeia fischeri Eversmann in the Okayama Prefecture

筆者はかつてクロツバメシジミを越冬羽化したことがある。(クロツバメ観察5, すずむし vol. 9, NO.1. 1959) その後数年間我家のツメレンゲはかなり繁殖したにもかかわらず、クロツバメシジミは全然住みつかなかった。しかし1964年には越冬幼虫を発見し、引きつづいて飼育し羽化させた。幼虫は終令に達するまで野外飼育をし、終令に達してから室内飼育をした。

参考のために1958年の飼育記録を示すと次のようになる。

| 1957年 | 1958年 | | | |
|----------------------------------------------|-------|-------|--------------|-------------------|
| 12月 | 3月上旬 | 3月下旬 | 4月 | 4月~5月 |
| 1~2令 | 3令 | 4令 | 4日孵化 7日蛹化 | →30日羽化 →5月1日羽化 |
| 以上のように他の季節であれば10日前後である孵化期間が24日~27日間で異常に長かった。 | | | | |
| 今回の場合は | | | | |
| 1964年1月→ | | 3月 | →4月1日~ | |
| 幼虫発見1~2令 | | 3令~4令 | 7頭蛹化 | |
| 6日→16日~19日 | | | | |
| | | 7頭羽化 | | |

蛹化期間平均15日、最も早い発生が4月16日であったが、これは県下の最も早い記録が福田村(楨本)

4月16日とよく符合する。

なお今回を含めて県南の本種の外採集、飼育を含めた記録をとってみると次のようになる。

④ 飼育羽化 1965年の記録は那須氏の記録である

A 採集(いずれも市街地)

| | 1 | | 2 | | 3 | | 4 | | 5 | | 6 | | 7 | | 8 | | 9 | | 10 | | 11 | | 12 | |
|----|---|---|---|---|-----|-----|-----|---|---|---|---|-----|-----|-----|---|---|-----|-----|-----|-----|----|---|----|---|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 54 | | | | | | | | | | | | | A | A | A | A | (A) | (A) | (A) | | | | | |
| 55 | | | | | | | | | | | | | A | A | | | (A) | (A) | (A) | | | | | |
| 56 | | | | | | | | | | | | | (A) | (A) | | | | | (A) | (A) | | | | |
| 57 | | | | | A | | | | | | | A | | | | | | | | | | | | |
| 58 | | | | | A | (A) | (A) | | | | | (A) | (A) | | | | | | | | | | | |
| 64 | | | | | (A) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 65 | | | | | | | | | | | | | | | A | A | A | | A | A | A | | | |

この資料によると一応4月中下旬6月中下旬7月中下旬9月下~10月上旬のあたりに発生のは早計であろう。なお羽化率は百%でこれまでも本種で寄生さ

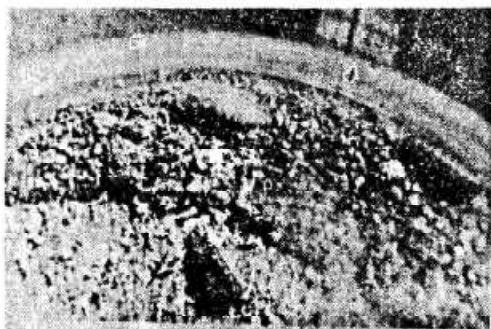
れたものを知らない。

写真1



せっ食中の幼虫はツメレンゲの越冬芽の中に入り込んでいるが、成長と共に外部から見えるようになる。4令幼虫 1964.3.22

写真2



左上、蛹化直後の蛹 右上 前蛹
左下 蛹 1964.4.2

写真3



マンネングサの葉にとまる成虫
1964.4.19

SUMMARY

Larvae eat all the time during hibernation and emerge from the middle of April to the end of it

There are four to five generation occur in a year

参考文献

- 1, クロツバメ観察5, 赤枝一弘 すずむし vol.9 NO.1 1959
- 2, 岡山県におけるクロツバメシジミの生活史 赤枝一弘 新昆虫 vol.12, NO.4, 1959
- 3, 都窪郡福田村における蝶類の分布について 楨本精二 すずむし vol.10, NO.1, 1960
- 4, 1965年のクロツバメシジミの記録, 那須敏

岡山県の蛾 (8)

シャクガ科

アオシャク亜科

楨本 精二

シャクガ科はヤガ科について大きな科で、6つの亜科に分けられている。今回はそのうちのアオシャク亜科について申し上げます。

アオシャク亜科は薄い緑色の美しい翅を持ち、その翅型とともに、一見して他の科・亜科の蛾と見分けがつく。大きさは中型からマイクロに近い大きさのものまである。新鮮なものは美しい緑色又は灰褐色であるが、古くなると薄い黄色を帯びた白色となり、紋様の見分けがつかなくなり、同定に困難を感ずることがある。また、殺すとき使う薬品によっても変色するので、私は四塩化炭素 CCl_4 を使っている。また標本にしてからも、防虫剤や太陽光線により変色するので、取扱いに注意を要する。

我が国のアオシャク亜科については、井上寛(1961)⁽⁵⁾が65種を図示詳説しており、その俊南西諸島・琉球列島の採集調査が進み3未記録種が加わり⁽⁶⁾⁽⁷⁾68種を産することとなっている。

岡山県には過去の記録⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾から41種が産することになっており、我が倉敷昆虫館には、岡山県未記録種4種を含む26種が展示されているので、現在岡山県に産するアオシャク亜科は45種となる。

倉敷昆虫館に展示されている目録はつぎのとおりである。

記

シャクガ科

FAMILY GEOMETRIDAE

アオシャク亜科

SUBFAMILY GEOMETRINAE

アヤシャク族

TRIBE TERPNINI

GENUS PINGOSA MOORE

1 オオシロアヤシャク

Pingosa alba bromescens GUENEÉ

124-1:1157:871

Ⅷ・13・1963 玉島市玉島 楨本精二

2 コアヤシャク

P. pseudoterpnaria pseudoterpnaria (Gueneé)

124-2:1158:872

Ⅷ・11・1965 児島市赤崎 楨本精二

3 ウスアオアヤシャク

P. aigmeri Prout

124-3:1159:873

Ⅴ・9・1963 新見市足立 青野孝昭

Genus *Tertna* Herrich-Schäffer

4 オオアヤシャク

Tertna (Pachista) superans Butler

124-4:1160:874

Ⅴ・16・1963 新見市足立 青野孝昭

Ⅷ・29・1965 新見市正田 楨本精二

Genus *Agathia* Gueneé

5 チズモンアオシャク

Agathia (Mytagathia) carissima Butler

124-6:1162:876

Ⅹ・7・1963 総社市豪溪 林 憲一

2 exs

アトヘリアオシャク族

Tribe *Aracini*Genus *Aracina* Butler

6 アトヘリアオシャク

Aracina muscosa muscosa Butler

124-9:1168:879

Ⅹ・7・1963 総社市豪溪 林 憲一

シロオビアオシャク族

Tribe *Geometrini*Genus *Geometra* Linnaeus

7 カギシロスジアオシャク

Geometra (Megalochlora) dieckhumi Graeser

125-1:1173:886

Ⅶ・9・1963 高梁市広瀬 楨本精二

8 クロスジアオシャク

G. (M.) palida C. et R. Felder

125-3:1175:888

Ⅶ・3・1960 阿哲部大佐町布瀬 赤枝

一弘

キマエアオシヤク

Tribe neohittarchini

Genus Neohittarachus Inoue

9 キマエアオシヤク

Neohittarachus wallata Butler)

125-4:1176:889

K・20・1963 玉島市玉島 榎本精二

V・24・1964 久米郡福渡町旭川ダム

重井 博

VII・31・1965 新見市正田 榎本精二

シロフアオシヤク族

Tribe ochrognesiini

Genus chloromochia Warren

10 ヒメシロフアオシヤク

Chloromochia introcta Wilann)

126-12:1202:913

VII・31・1965 新見市河本 榎本精二

VII・31・1965 新見市正田 榎本精二

岡山県未記録種である。兵庫・香川の両県には記録があるが、広島県には記録がない。

Genus Ochrognesia Warren

11 シロフアオシヤク

Ochrognesia diffracta Walker)

126-13:1203:914

VII・24・1963 倉敷市栄町 山砥司朗

クスアオシヤク族

Tribe Thalassodini

Genus thalassodes Guenee

12 クスアオシヤク

Thalassodes quadraria Guenee

125-12:1184:897

VIII・21・1963 玉島市玉島 榎本精二

K・22・1963 〃 〃

X・16・1964 〃 阿賀崎 〃

岡山県未記録種である。県南部地方に普通である。兵庫・香川両県下に記録があるが、広島県には記録がない。

ヒメアオシヤク族

Tribe Iodiini

Genus Iodis Hübner

13 ナミガタウスキアオシヤク

Iodis lactearia Linnaeus)

126-20:1211:922

V・27・1964 高梁市広瀬 榎本精二

VI・28・1964 〃 〃

14 ウスキヒメアオシヤク

J. urasticta Prout

126-22:1213:924

VII・27・1963 高梁市広瀬 榎本精二

V・9・1964 新見市草間 〃

VI・29・1964 玉島市陶 〃

Genus Gelasyn Warren

15 スジモンツバメアオシヤク

Gelasyn albistrigata Warren

125-5:1177:890

V・25・1964 高梁市広瀬 榎本精二

岡山県未記録種である。近県に記録がない。

16 ズグロツバメアオシヤク

G. fuscifrons Inoue

125-7:1179:892

VI・9・1965 児島市カイワリ峠 榎本

精二

岡山県未記録種である。兵庫県には記録があるが、広島・香川両県には記録がない。

17 ヒメツバメアオシヤク

G. protrusa Butler)

125-9:1181:894

VIII・27・1963 高梁市広瀬 榎本精二

18 ハガタツバメアオシヤク

G. grandificaria Graeser

125-10:1182:895

VI・23・1963 新見市草間 榎本精二

VI・12・1964 高梁市広瀬 〃

キバラアオシヤク族

Tribe Hemitheini

Genus Hemithea Dubouché

19 キバラヒメアオシヤク

Hemithea aestivaria Hübner)

125-13:1185:898

VIII・11・1963 玉島市玉島 榎本精二

VIII・17・1963 〃 〃

Genus Chlorissa Stephens

20 コウスアオシヤク

Chlorissa obliterated Walker)

125-16:1188:901

K・2・1963 玉島市玉島 榎本精二

Genus Diptodesm Warren

21 ナミスジコアオシヤク

Diptodesm ussuriaria Bremer)

126-2:1193:905

VII・24・1963 新見市吉川 榎本精二

Genus Cultinia Prout

22 アカアシアオシヤク

Cultinia diffusa (Walker)

126-4:1195:906

VI・5・1964 玉島市陶 榎本精二

ヨツモンアオシヤク族

Tribe *Caribaenini**Genus caribaena* Hübner

- 23 ギンスジアオシヤク
Caribaena (*s. str.*) *orientetaria* (Leech)
 126-9; 1199; 910
 M・23・1963 新見市草間 榎本精二
- 24 クロモンアオシヤク
C. (*s. str.*) *niravicularia delicatior*
 (Warren)
 126-10; 1200; 911
 M・13・1963 玉島市玉島 榎本精二
 K・7・1963 総社市蒙溪 林 憲一
 K・12・1963 玉島市玉島 榎本精二
 X・4・1963 倉敷市栄町 山砥司朗

Genus Thetidia Boisduval

- 25 ヨツメアオシヤク
Thetidia albocostaria Bremer
 126-15; 1205; 917
 K・2・1963 玉島市玉島 榎本精二
 コヨツメアオシヤク族

Tribe *Constolini**Genus Constola* Meyrick

- 26 コヨツメアオシヤク
Constola subtiliaria Bremer
 126-26; 1217; 928
 M・17・1962 倉敷市 山砥克己
 K・2・1962 〃 〃
 X・6・1963 玉島市玉島 榎本精二
 K・26・1963 〃 〃
 V・25・1964 高梁市広瀬 〃

つきに倉敷昆虫館には未展示品で、岡山県に産する記録のあるものは

- イ ウスアオシヤク
 津山市⁽²⁾4月下旬、黒沢山⁽³⁾M・3・1961の記録あり。県北部に産す。
- ロ アシプトチズモンアオシヤク
 黒沢山⁽³⁾M・22・1961の記録あり。
 県中部以北の山地に産する。
- ハ カギバアオシヤク
 浅口郡金光町・真庭郡勝山町⁽¹⁾・津山市⁽²⁾8月・黒沢山⁽³⁾の記録あり。全県下に産す。
- ニ ヒメカギバアオシヤク
 津山市⁽²⁾6月中旬の記録あり。
 山地性である。
- ホ オオシロオビアオシヤク
 苫田郡上加茂村河波⁽²⁾7月の記録あり。
 県北部山地に産す。近県に記録なし。

ヘ シロオビアオシヤク

- 県北部一円(津山)⁽¹⁾の記録あり。
 県北部に産す。
- ト コシロオビアオシヤク
 南部一円 児島郡藤田村⁽¹⁾の記録あるも、藤田村は干拓平地で樹木が殆どなく、児島半島の山から飛来したものではなからうか。
- チ ツバメアオシヤク
 北部一円 後月(井原)⁽¹⁾の記録あり。
 山地に産す。
- リ ヒロバツバメアオシヤク
 津山市大谷⁽²⁾7月の記録あり。
 全県下に産す。
- ヌ アオスジアオシヤク
 津山市大谷⁽²⁾7月下旬の記録あり。少ないらしく、近県に記録がない。
- ル ハラアカアオシヤク
 津山市大谷⁽²⁾7月の記録あり。県北部山地に産するが少ない。
- ヲ ホソバハラアカアオシヤク
 都窪郡福田村⁽⁴⁾M・21・1959の記録あり。全県下に産す。
- ワ ヨツモンマエジロアオシヤク
 南部一円 上道(高山)⁽¹⁾・津山市⁽²⁾8月の記録あり。全県下に産す。
- カ ヘリジロヨツメアオシヤク
 南部一円 小田(中川)⁽¹⁾・黒沢山⁽³⁾M・3・1961の記録あり。山地に産する。
- ヨ ハガタアオシヤク
 北部一円 英田(林野)⁽¹⁾の記録あり。中部山地以北に産するが多くない。
- タ コシロスジアオシヤク
 津山市⁽²⁾8月上旬の記録あり。全県下に多い。
- レ ハガタキスジアオシヤク
 津山市大谷⁽²⁾7月上旬の記録あり。中部山地以北に産し、少ない。近県に記録なし。
- ソ ウスミズアオシヤク
 津山市小田中⁽²⁾7月中旬の記録あり。中部以北の山地に産す。年1回の発生である。
- ツ ヒメウスアオシヤク
 津山市⁽²⁾5月上旬の記録あり。全県下に普通である。
- ネ マルモンヒメアオシヤク
 津山市⁽²⁾5月下旬の記録あり。全県下に産するが少ない。
 岡山県未記録種について考察すると、
- A 南方系で全く採集見込のないもの
 マダラチズモンアオシヤク、オガサワラチズモンアオシヤク、ヘリクロヒメアオシヤク、ウ

ラジロアオシヤク, アマミヨツモンアオシヤク,
ソトムラサキアオシヤク, (タイワンアヤシヤク),
コガタアオシヤク

B 寒地性の蛾で全く採集見込のないもの

カラフトウスアオシヤク, マエモンシロスジ
アオシヤク, スジツバメアオシヤク, チビムジ
アオシヤク, ナミガタフタスジアオシヤク, フ
タスジアオシヤク, オオナミガタアオシヤク

C 産地が少なく, 採集見込み不明のもの

ヘリアカトガリアオシヤク, アカハラヒメア
オシヤク,

横須賀市で採集された 2 ex. に基づいて井上
博⁽⁵⁾が新種として発表したもので, 其の後横須
賀市, 愛知県⁽⁴⁾・沖縄⁽⁴⁾の記録しかない。

D 採集可能性のあるもの

a ノコバアオシヤク

産地が極限されて少ない種であるが, 京都
府比叡山, 大阪府岩湧山, 兵庫県妙高山の記
録あり。県の中北部山地で採集可能性あり。

b ウスハラアカアオシヤク

春の蛾で, 4 月頃山地に産して多い。小型
の蛾である。

c ヨッテンアオシヤク

近畿以西の低山地に産し, 少ない。小型
の蛾である。広島県では採集記録あり。

d コガタヒメアオシヤク

小型の蛾で, 平地ばかりでなく山地にも多
い。井上博⁽⁵⁾が 1961 年に新種として発表
したもので。

e アカホシヒメアオシヤク

小型の蛾で近畿より西に産するといわれる
が, 採集記録が少ない。

f ヘリクロテンアオシヤク

香川県での採集記録もあるも, その外では愛
知県・長野県⁽⁵⁾・東京都の記録があるだけで
ある。

以上県下のアオシヤク亜科について申し上げた
が, どの蛾でも大型・中型・美麗種はよく採集さ
れていて, 資料も多いが, 小型の蛾は一寸見ただ
けでは種の区別がつけ難く, 採集後の展翅処理も
面倒なので, 採集されずに放置されていることが
多い。しかし, 日本の蛾もマクロについては大方
研究されつくして, 新種の発見も期待薄であるが,
ミクロについては未開拓の分野が多く, 各研究誌
に属々と新属, 新種の記載が発表されている有様
である。欧米並みのレベルに達するには小型の蛾
の採集研究に努めねばならない。愛好者の奮起を
望むこと切である。

参 考 文 献

- 1 岡山県: 岡山県内生物目録, 1930.
- 2 片山豊八: 美作産蝶蛾目録, 岡山と昆虫,
1959.
- 3 片山豊八: 黒沢山採集記-黒沢山蛾類-覧表
(才1報), 美作の自然, (6): 7-13,
1960.
道言 順: 黒沢山「蛾類-覧」に就いて, 美
作の自然, (7): 37-38, 1961.
- 4 榎本精二: 都窪郡福田村産蛾類目録, すずむ
し, 11(1): 1-3, 1960.
- 5 井上 寛: シヤクガ科(1), 日本昆虫分類図説
1(4), 1961.
- 6 井上 寛: 奄美郡島のシヤクガ, 昆虫32
(4): 535-551, 1964.
- 7 川副昭人・緒方正美: A List of moths
from the Ryūki Islands (1). TYO TO
GA 13(2): 13-27, 1962.
- 8 豊島 弘: 香川県の蛾(1)シヤクガ科, 香川生
物 2: 14-20, 1959.
- 9 豊島 弘外: 象頭山のガ・ピロウドハマキ
2: 4-47,
- 10 中村慎吾: 広島県北部山地の蛾類 (才1報).
比和科学博物館研究報告 4: 9-19, 1961.
- 11 中村慎吾: 広島県北部山地の蛾類 (才2報).
比和科学博物館研究報告 6: 1-4, 1963.
- 12 中村慎吾・中村豊二・清水健一: 広島とその
周辺の蛾類目録. 比和科学博物館研究報告
6: 9-18, 1963.
- 13 清水健一: 廣島(宮島)の注目すべき蛾類.
広島虫の会会報 3: 63-65, 1964.
- 14 山本義丸: 兵庫県水上郡昆虫目録, 1958.
- 15 山本義丸: 氷ノ山の蛾類について (才2報).
兵庫生物 3(3): 1-3, 1956.
- 16 山本義丸: 氷山の蛾類について (才3報).
兵庫生物 3(4): 1-3, 1958.
- 17 山本義丸: 氷ノ山の蛾類について (補遺).
兵庫生物 3(5): 383-384, 1959.
- 18 井上 寛: ヘリアカトガリシヤクの新産地,
蛾類通信 (30): 195, 1962.

++++おとしぶみ+++++

阿哲郡大佐町布瀬でムネアカセンチコガネを採集
1960年7月河哲部布瀬において本種 *Bolhocero
sonmigroplagiatum* WATHEHOUSE を1頭採集し
ているので報告しておく, 本種は昆虫館にも1頭
標本があるがかなり少ない種と想う。なお本誌01
・14 NO.2 に竹内幸夫氏がアカマダラセンチコガ
ネとして報告しておられるのは, 本種のことと思
う。 (赤枝一弘)

大山採集記

那須 敏

1965 7月25日～7月27日

学校より大山キャンプ

- コース 25日 豪円山キャンプ場(豪円山と中の原との間の林)
 26日 旅館(上杉)→大山頂上→麓走→元谷→大山寺部落
 27日 旅館→豪円山

I 甲虫類

○カミキリムシ科

1. ホソカミキリ (3)
 豪円山キャンプ場(葉上・灯火)
 2. ヒメヒゲナガカミキリ (1)
 天狗ガ峰(飛翔中)
 3. クスバニカミキリ (2)
 大山寺部落, 豪円山(飛翔中)
 4. アトモンサビカミキリ (2)
 豪円山キャンプ場(そだ)
 5. シロオビチビカミキリ (1)
 山の家付近(そだ)
 6. トゲバカミキリ (3)
 山の家付近(そだ)
 7. ダイセンカミキリ (7)
 豪円山キャンプ場(葉上・飛翔中)
 8. シラホシカミキリ (1)
 大山寺(飛翔中)
 9. ハンノアオカミキリ (1)
 豪円山キャンプ場(葉上)
 10. ヘリグロリンゴカミキリ (1)
 豪円山キャンプ場(ヨモギ葉上)

○その他

1. ケヤキナガタマムシ (1)
 大山寺部落(枯枝上)
 2. ミヤマナガボソタマムシ (1)
 豪円山キャンプ場(飛翔中)
 3. ルリツヤハダコメソキ (1)
 大山頂上 他に3種
 4. ヒメハナムグリ (4)
 大山頂上(飛翔中)
 5. ニワハンミョウ (1)
 豪円山キャンプ場
 6. テントウムシ (1)

豪円山キャンプ場

7. クロナガキマワリ (2)

元谷・大山寺

その他に木村君が採集したもの ○ヒゲナガゴマフカミキリ ○トゲヒゲトウカミキリ ○ヤハズカミキリ

II 蝶類

1. ミヤマカラスアゲハ (1 ♀) 大山頂上
 2. キアゲハ (1) ♀
 3. スジボノヤマキチョウ (3♂・1♀) ♀
 4. アサギマダラ (1♀) ♀
 5. アカタテハ (1♀) ♀
 6. ルリタテハ (1♀) 豪円山
 7. ウラギンヒョウモン (6♂・3♀) 中の原, 豪円山キャンプ場, 大山頂上
 8. オウラギンスジヒョウモン(2♂・4♀)
 中の原, 大山頂上
 9. ミドリヒョウモン (2♂・3♀)
 中の原
 10. ツマグロヒョウモン (2♂・1♀)
 大山頂上
 11. オオミドリシジミ (4♂)
 大山頂上付近
 12. トラフシジミ (1) 中の原
 13. ヒメシジミ (1♀) 豪円山キャンプ場
 14. ヒメキマダラセセリ (1) 大山頂上
 15. ヘリグロチャバネセセリ (1) 豪円山

III 蛾類

1. スキマホウジャク (1) 中の原
 2. ホウジャク (1) 大山頂上付近
 3. マツカレハ (1♂) 大山寺
 4. エノシモフリヌズメ (1♂) ♀
 5. ベニシタバ (1) 豪円山

他に2種

1965. 8月1日～4日

家より

コース

- 1日 旅館(白雲荘)→豪円山キャンプ場・中の原
 2日 構手道→文珠堂
 3日 旅館(午前中)→大神山神社→中の原→

旅館(午後)→寂靜山→中の原→大神山神社→旅館
4日 旅館→横手道

甲虫類

1. ホソカミキリ (2) 横手道 旅館 (ウルシ生木)
 2. ニフハナカミキリ (1) 横手道 (花上)
 3. オオヨツスシハナカミキリ (1) 横手道 (飛翔中)
 4. ヨツボシカミキリ (1) 旅館 (死個体)
 5. トビイロカミキリ (1) 二の沢付近 (花上)
 6. ウスイロトラカミキリ (1) 大山寺 (電柱)
 7. エグリトラカミキリ (1) 蒙門山キャンプ場付近 (薪)
 8. クスベニカミキリ (3) 横手道 (飛翔中)
 9. イタヤカミキリ (1) 蒙門山キャンプ場 (ミズナラ生木)
 10. ビロードカミキリ (2) 山の家付近 旅館 (葉上など)
 11. トガリシロオビサビカミキリ (2) 旅館 (灯火)
 12. シラホシカミキリ (2) 蒙門山キャンプ場 横手道 飛翔中
 13. ダイセンカミキリ (3) 文珠堂付近 (葉上)
 14. ハンノアオカミキリ (1) 大神山神社付近 (飛翔中)
 15. ヘリダロリンゴカミキリ (2) 蒙門山キャンプ場 横手道 (葉上)
 16. コベネカミキリ (1) 蒙門山山麓 (枯木中)
1. ルリツヤハダコメツキ (1) 横手道
 2. オオツヤハダコメツキ (3) 旅館 横手道
 3. ヒゲコメツキ (♂1 ♀) 旅館 (灯火)
他に2種
1. ウバタマムシ (1) 旅館 (灯火)
 2. サビキコリ (1) 〃 (灯火)
1. ヒメシロコクゾウ (1) 中の原 (葉上)
 2. フトカツオノウ (1) 横手道
 3. クロオビヒゲナガゾウ (1) 蒙門山キャンプ場付近 (薪)

1. スジクワガタ (2♂) 横手道 寂靜山
2. ミヤマクワガタ (1♂) 旅館 (灯火)
3. ノコリクワガタ (1♂) 〃 (灯火)

1. ビロードコガネ (1) 蒙門山キャンプ場
2. シロジュウゴホシテントウ (1) 〃 (飛翔中)
3. カンワツツハムシ (1) 横手道 (〃)
4. カメムシ4種

蝶類

1. モンキアゲハ (1) 山の家付近
2. ミヤマカラスアゲハ (1♂・1♀) 大山寺金門
クサギ花上
3. カラスアゲハ (1♂) 丸山寺 〃
4. オナガアゲハ (1♀) 〃 〃
5. キアゲハ (1) 中の原 花上
6. アサギマダラ (4♂・3♀) 中の原等 〃
7. ヒメキマダラヒカゲ (3) 寂靜山 〃
8. サカハ チョウ (3) 中の原 〃
9. キタテハ (1) 蒙門山キ
ャプ場付近
10. ウラギンスジヒョウモン (3) 中の原
11. オオウラギンスジヒョウモン (2♂・3♀) 〃
12. ウラギンヒョウモン (1) 横手道
13. メスグロヒョウモン (1♀) 中の原
14. オオウラギンヒョウモン (3♀) 〃
15. クモガタヒョウモン (1♂) 〃
16. スジボンヤマキチョウ (1♂・2♀) 〃
横手道、
17. ウスイロオナガシジミ (6) 中の原上部
18. アカシジミ (1) 横手道
19. ウラクロシジミ (1♀) 〃
20. メスアカミドリシジミ (1♀) 横手道分れ
手前
21. ミドリシジミ類 (23♂・17♀) 横手道、中
の原上部等
22. トラフシジミ (10) 中の原
23. オオチャバネセセリ (1) 一の沢付近
24. ダイミョウセセリ (1) 横手道

おとしぶみ

阿哲部大佐町布瀬でナカスジシヤチホコ
筆者は本誌 Vol. NO. に布瀬で採集した蛾を主とし
て70種余りを発表した。その時もれている種
の中に本種があることが分った。

Norice tibartita Butler ナカスジシヤチホコ
1961.8.30

阿哲部大佐町布瀬 筆者採。
この種は保育社の図鑑によると、本州では稀とな
っており県下からも他に記録はないと思う。
(赤枝一弘)

南アルプス採集行メモ (I)

水野弘造

私はとうとう南アルプスにとりつかれてしまったようだ。荘大な森林、おおらかな山容、潮れども潮れども水量の減らない大井川の源流、その急流をまたぐ幾多の吊り橋、ふところの深い谷間、人影の少ない山道、山頂への馬鹿尾根、そして何よりも圧倒的な昆虫の数々！ どれ一つとして思い出して胸おどらぬものはない。そこには北アルプスの峻険な山頂もなく、巨大な岩壁もなく、大雪渓もなく、完備した山小屋もなく、あるのは馬鹿長い山道とおそろしく不恰好に大きな山々であるが一度その魅力にとりつかれた者を二度と離さぬ何物かがついに私をして3年連続この山脈のふところに向わしめたのである。

ブラックリストに載せておきながらついに三年ともお目にかかれなかった種類、他の採集者にやられて地団駄を踏んだ種類、もう少し早く行ってれば...、もう少し遅くまでねばってれば...、など心に残る種類は数多いが、石の上にも三年という通り、三年続けて同じ場所に、しかも同じ時期に行ったおかげで普通に採集できるものだけは一応採れたように思われ、余程又腹の虫が催さない限り当分は訪れることも無かるうと思ひ、自分自身のメモ代りに、又これから採集行を予定される方への多少なりとも参考にならうかと、コース・日程・採集品などを簡単に紹介することにする。なお私の行った地域は南アルプスの中央部・二軒小屋付近だけであり、一般によく知られている北岳・仙丈岳付近や南部の上河内岳・荒岳など面白そうな地域は一度も行かずに表記のような題名でものを書くのは少々気がひけるが他に適当な表現法を思いつかないのでお許しをいただきたい。

日程・コース

(1963年) (同行者：中村一郎(蝶))

- 7月27日 (26日) 10.20 京都発 急行才2ナ=ワ 富士 (4.23) - 身延 (6.10) 奈良田行バス (6.35) - 新倉 (アクラ) (9.00) 着, 9.30 出発 - 東電小屋 12.00 - 転付峠 3.30 - 二軒小屋 5.00 着
○7月28日 東侯採集
9.00 - 御沢 2.00 折返し - 4.30
○7月29日 西侯採集
7.00 - 桜島 8.30 - 小西侯出合 10.00 - 中

侯 侯屋跡 12.00 折返し - 5.00

○7月30日 ^{サクラ} 樺島採集
8.30 - 樺島 12.00 折返し - 5.00

○7月31日 下山

8.30 - 転付峠 10.30 - 峠下 11.30 - 新倉 1.30 着
バス 3.00 - 身延 5.00 着 電車 5.20 - 富士 22.00
(1964年) (同行者：土屋祥晃 載)

○7月26日 入山

新倉 10.00 - 二軒小屋 5.20 (前年通り)

○7月27日 樺島採集 (前年通り)

○7月28日 東侯採集 (前年通り)

○7月29日 三伏 (サンブク) 峠へ

二軒小屋 6.00 - 桜島 8.00 - 小西侯 10.00 - 三伏
沢 12.20 - 三伏峠 2.30 三伏峠小屋泊。○7月30日 塩見岳登山・塩の湯へ
三伏峠 5.50 - 塩見岳 8.30 折返し - 三伏峠 11.30
- 峠下 1.30 - 塩川 3.00 バス 4.00 - 塩の湯 4.00
着、泊。

○7月31日 帰路

バス 鹿塩 9.20 - 飯田 11.30 電車 12.35 - 豊橋 16.
(1965年) (同行者なし) 30

○7月29日 入山

新倉 9.00 - 二軒小屋 4.00 (前年通り)

○7月30日 樺島採集 (前年通り)

○7月31日 東侯採集 (前年通り)

○8月1日 荒川岳登山

二軒小屋 3.30 - 千枚岳 10.00 - 東岳 12.00 - 中
岳 1.30 - 前岳 2.00 - 荒川小屋 3.00 泊。

○8月2日 赤石岳登山

荒川小屋 4.45 - 大聖寺平 5.15 - 小赤石 6.15 -
赤石岳 7.00 - 赤石小屋 9.15 - 樺島 11.45 -
中の宿 15.30 泊。

8月3日 下山

中の宿 7.30 - 畑難才1ダム 9.45, バス 10.20 -
八木尾又 11.30 バス乗換 13.00 - 静岡 16.10,
新幹線 17.05 - 京都 22.05。

装備 山小屋

山小屋は北アルプスや中央アルプスと異なり、殆んど食事、寝具が無く、食糧、寝袋などを自参しなければならぬ。二軒小屋だけは例外で、ここを根拠に採集だけを目的とするならば雨具以外は何も要らない。食事には川魚、山菜などを出し

てくれ、風呂もあって採集根拠地として絶好の場所である。1964年は無装備で三伏峠に泊り、夜の寒さにくらくろ寝られず翌日に疲労が残った。百間洞山の家という小屋では食事を出すそうだがその途中の小屋ではやはり自炊しなければならぬ。1965年を例外として午後は必ず夕立に見舞われた。頭上でガンガン落雷するので夕立が来そうになったら出来るだけ急いで屋根から逃げなければならない。そのためにも午後3時までには目的地に着くよう歩く必要がある。山小屋と山小屋の距離はいずれも非常に遠く、1日10時間歩行を覚悟しなければならぬ。このあたり一帯は東海パルプの社有林で伐材は言うに及ばず、歩行中の喫煙、指定地以外の野営など厳禁されている。山小屋でも登山者は皆ラジウス自参であった。私は装備の關係上主食は乾燥米と即席ラーメンのみとし、山小屋の湯を貰って済ませ、ラジウスは自参しなかった。谷底には小屋が点々とあるが、山人夫のための施設が多く、泊めてくれない場合があるから長期滞在の場合は事前に連絡する必要がある。水場は谷底を歩くかぎりいたる所にあるが尾根道では全く無く、水筒一人二個は用意した方がよい。千枚岳に登った時はそれでも不足しそうなので早朝木の葉の露をしゃぶりながら登った次才だが、木の種類によって露の味が違うという一大発見をした。

吊橋

大井川上流は源流に至るまでこの山奥によくも思ふような立派な山道が作られている。橋は全て吊橋で採集に歩くと一日に10回以上渡ることになる。ついに夜寝ついても体がふわふわと揺れるように感じ始める。中でもすごいのが、畑窪ダムの上に吊られた橋でこれを渡らないと茶臼岳には登れないそうだが、100m以上の大吊橋。高さが30mもあろうか、渡るのに5分以上かかり、荷物を背おって歩くと手すりですり切れそうである。風でも吹かれると足がすくんで渡れないそうだが「つかまっていちゃ落ちないよ」とは荒川小屋主人の話。私は横目で見ただけで通ってみなかったのが思い出す毎に心残りです。伊那谷から赤石岳に登る小渋川コースは吊橋すら無いそうで、一寸雨が降ると身を切るような冷水の激流を10回以上渡渉しなければならぬそうである。荒川小屋で会った登山家は18回渡渉しついに広河原で一泊したそうである。憎らしい人間に推めるべきコースであろう。

登山家

この地域ではまだまだ登山家の数は少く、道で出会う人数も正確に記憶できる程度である。谷底

では山人夫が殆んどで、ヤマメ・イワナつりの人も時に会う。登山家はベテラン揃いで北アルプスや中央アルプスなどは目をつむっていても歩けそうな話をしている。皆親切であり、服装なども地味で、北アルプスなどのようにビクニック気分のチャラチャラしたアンパンや赤や黄色の派手なミーチャン、ハーチャンなど居ないので気持ちいい。

採集家

二軒小屋の宿泊者は1/3が登山家、1/3が太公望、1/3が昆虫採集家であり人が一番の早起き、次いで登山家。昆虫採集家はいつまでもだらしない寝ているそうだが、それでも6時過ぎには皆起こされてしまう。当地は地勢上東京からの採集家が多くそれも大部分はカミキリ屋さんである。口々にキバリカタピロハナやヒメヨツスジハナの名を唱えながら採集に出かけて行く。ここまで採集に来る人間はいずれも相当な手腕家であり、私の脳裡に強烈な印象を残して行った。東京の中村俊彦氏(カミキリ)鈴木義勝氏(カミキリ)、山形の板垣輝彦氏(オサムシ・カミキリ)、静岡の高橋真弓氏(蝶)、大阪の野村英世氏(カミキリ)などの諸氏のほか名を開きそこねた採集家が多勢ある。また三伏峠では東京の春田俊郎氏(ヒマラヤ蝶蛾調査隊長)に会い、同行していた南米帰りの土居祥兌君と国際的スケールによる採集談義をおっぴいめたので私は生きた心地もなかった。

森林

当赤石山脈は前述のようにパルプ会社の社有林が多く国立公園化にあたり種々問題があったようであるが、1964年標高2500m以上(だったと思う)を国立公園に指定するという事でケリがつき、南アルプス国立公園として発足した。従って谷底では相変わらず伐材が行なわれていて原生林は次々と姿を消している。過去好採集地として知られた楯島付近も現在では植林帯と化しは昔日のおもかげはないという。大井川上流の東俣、西俣もいづれ同じ運命にあるわけであるが、この森林は幸なことにおそろしく広大であり今後少くも20年は昆虫類の絶滅はあるまいと考えられる。なお伐材現場が甲虫採集に極めて都合よいことは言うまでもない。

山・峠

二軒小屋へは^{テツツ}軒付峠越えで入るのが最も簡単で3回ともこのコースで入った。しかし簡単とは言え標高2000m、勿論1日がかかりで、しかも名の示す通りなめてかかると途中でアゴが出る。下山の場合は少し楽である。三伏峠は大井川を遡行すると傾斜はゆるやかであるが距離が長い。伊那側からは急勾配でしかも標高差が大きい。標高2580m

日本でも有数の高さを誇る峠で森林限界になりお花畑に囲まれる。山には三伏峠から塩見岳(3047m)へ空手で往復した。二軒小屋からは千枚岳(2380m)―荒川東岳(別名、悪沢岳3146m)―荒川中岳(別名、魚無河内岳(3083m)―荒川前岳(3060m)―小赤石岳(3080m)―赤石岳(3120m)というコースを歩いたが二日がかかりであり、尾根にとりつくまでの急傾斜はとても日中では耐えられず、日の出前にとりつく必要がある。そのため午前3時には起こされた。尾根に出てからは自分のペースをくずさぬ限り楽であり、下山するのが借しくなる。二軒小屋では光岳から上河内岳―聖岳―赤石岳―荒川岳と一週間がかかりでしかも一人で踏破したという女性に出会ったが、食糧の備えさえあればその気持ちも十分に理解できようというものである。赤石岳からは北岳を除く南アルプスの全山が見晴らせ、富士はその東正面に、反対側に中央アルプス、遠く北方に北アルプスや奥秩父などの山々が一望のもとになり、塩見岳よりも一層展望がよい。ところがこの赤石岳はふもとの谷間からは全く仰ぎ見ることができぬ仙境で、一旦その頂上に立つやどのコースで下山しても交通機関に達するまで途中必ず一泊しなければならぬ由。ゆめ気安く出かけてはならない。

カミキリ

当地は草間慶三氏の採集以来ハナカミキリ類の豊庫として有名であり、京浜昆虫同好会編々新しい昆虫採集(下)の口絵写真にも明らかなように魅力ある種が豊富である。ちなみに草間氏の名は当地に豊富な *Leptura busami* ヒメヨツスジハナカミキリや *Pachyta elebia* キベリカタビロハナカミキリの黄色型 *f. kusumi* などの学名によって永遠に記念されている。なお当地域のカミキリ目録は已に完成されたとも聞いているが、私は不幸にして見る機会に恵まれず、従って私の採集品は犬も歩けば棒に当たる式のものに過ぎないことをお断りしなければならない。

以下は私の採集したもののほかには少数土居の採集したものも含まれる。

1) マルクビヒラタカミキリ

2) トドマツカミキリ

伐材木に飛来したものと針葉樹の古株に発生したもの(とあり1)、2)とも少なくない。

3) ニッポンハイイロカミキリ

西俣で2頭。

4) フタコブルリハナカミキリ

肢は黄色である。4頭。

5) キベリカタビロハナカミキリ

黄色型 *f. busami* が半分位で原型との中間型も居る。1963年には東俣で1日に20頭余採れ翌日、翌々日と他の採集者も同じ場所でも多数採り総計100頭近くとれたことがあるが、普通はあまり多くない。転付峠や三伏峠の頂上にも居る。

6) トホシハナカミキリ

赤石岳頂上近くで1頭のみ、板垣氏は三伏峠で5頭採った由。標高2500mでは無埋。

7) クモマハナカミキリ

三伏峠で約10頭 これも谷間には居ない。

8) カラカネハナカミキリ

多産。中に腹の黒いのも居る。

9) ヨツボシチビハナカミキリ

谷底に普通。

10) ニセヨツボシチビハナカミキリ

Omphalodera testacea var. ussuriensis

Ohtayashi 三伏峠に多数。名前のついた悪沢岳では1頭も見当らなかった。

11) ムネアカヨコモンヒメハナカミキリ

12) ヨコモンヒメハナカミキリ

13) カタムネヒメハナカミキリ

14) オオナカグロヒメハナカミキリ

15) ナガバヒメハナカミキリ

16) ホソガタヒメハナカミキリ

17) マツシタヒメハナカミキリ

18) オオバヤシヒメハナカミキリ

19) チャイロヒメハナカミキリ

以上のうち16)18)がやゝ少ないが他は多産。

20) チャボハナカミキリ

21) ルリハナカミキリ

22) ミヤマクロハナカミキリ

23) クロルリハナカミキリ

23) は2頭のみ。21) がやゝ少ない。

24) ヒメアカハナカミキリ

二軒小屋―樺島間で2頭。

25) アカハナカミキリ

26) ブチヒゲハナカミキリ

どちらも普通。

27) イガブチヒゲハナカミキリ

東俣で1頭のみ。

28) ツヤケシハナカミキリ

29) ヒゲシロハナカミキリ

30) アオバホソハナカミキリ

31) ニンフハナカミキリ

32) ニョウホウハナカミキリ

33) タテジマハナカミキリ

33) は1頭のみ。

34) マルガタハナカミキリ

- 35) スバタマハナカミキリ
35) は4頭のみ。
- 36) コヨツスジハナカミキリ
木賊付近で4頭のみ。
- 37) ヨツスジハナカミキリ
- 38) ヒメヨツスジハナカミキリ
1964年土居と二人で計200頭近くを調べたが
全て37)で38)は1965年やっと7頭採れた。
語るも涙の物語である。
- 39) ハネビロハナカミキリ
塩川で1頭のみ。
- 40) クロハナカミキリ
当地のものは平地産よりも大型で、しかも♀
の前胸背も黒色で赤いものは全然居らず、又♂
の後脛筋の湾曲が平地産よりもやゝ大きく、又
谷底よりもやゝ高所の方に多く見られるなどの
点から平地の *dimpleta* と区別されよう。
- 41) ヤツボシハナカミキリ
各型とも多い。
- 42) フタスジハナカミキリ
- 43) オオヨツスジハナカミキリ
転付峠で1頭のみ。
- 44) カタキハナカミキリ
木賊付近で2頭。
- 45) ジャコウホソハナカミキリ
原型1頭。 *f. smagrinea* 2頭。
- 46) ミヤマホソハナカミキリ
- 47) ハコネホソハナカミキリ
- 48) ホソハナカミキリ
47) 48) は46) よりやゝ少い。
- 49) クビボンアカカミキリ
3頭のみ。
- 50) オオアオカミキリ
転付峠で1頭。
- 51) アオカミキリ
二軒小屋 2頭。
- 52) ミドリカミキリ
- 53) ルリボンカミキリ
二軒小屋などで3頭。
- 54) トラカミキリ
転付峠1頭。
- 55) ウスイロトラカミキリ
- 56) ツマキトラカミキリ
- 57) キジマトラカミキリ
- 58) ニイジマトラカミキリ
- 59) キスジトラカミキリ
- 60) エグリトラカミキリ
- 61) クロトラカミキリ
- 62) カンボウトラカミキリ
- 63) ホソトラカミキリ
- 64) マツシタトラカミキリ
- 65) シロトラカミキリ
以上の中では56) 61) 64) が少く各1頭。
62) は2頭。57) は転付峠や東俣などの伐材木
で必ず採れ約20頭。
- 66) ヘリグロベニカミキリ
1頭のみ。
- 67) タニグチコブヤハズカミキリ
本種は木曾駒ヶ岳産のものと直接照合してい
ないが、羽鑑による検索で一応本種と認められ
る。1963年東京の中学生が初め採集し、中村俊
彦氏が1頭叩き落としたのに刺激されて私も随
分採したが、死骸を自分の靴の中から1つ見出
したのとどまり心を残して下山した。翌1964年
やっと1頭手にすることができた。採れたのは
全て二軒小屋の周辺で、靴の中の死骸はくもの
巣にでもかかっていたのが夜間落ちたものと思
われる。従来中央アルプス特産とされていたも
のなので分布上興味深く、本種の同定は更に検
討しなければならない。
- 68) シラフヒゲナガカミキリ
針葉樹林に多い。
- 69) ヒメヒゲナガカミキリ
- 70) ピロウドカミキリ
- 71) ウグイスピロウドカミキリ
樺島付近で2頭。 スウィーピングによる。
- 72) センノカミキリ
1頭燈火に飛来。
- 73) ゴマフカミキリ
- 74) カタシロゴマンカミキリ
- 75) ヒゲナガゴマフカミキリ
74) 75) は各1頭。
- 76) フタオビアラゲカミキリ
- 77) フタモンアラゲカミキリ
- 78) エゾトゲムネカミキリ
76) 3頭。77) 2頭。78) 1頭。
- 79) ナカジロサビカミキリ
- 80) エゾサビカミキリ
- 81) キクスイモドキカミキリ
- 82) ドウボンカミキリ
- 83) ゴマダラモモブトカミキリ
- 84) ヒゲナガモモブトカミキリ
- 85) キッコウモンケンシカミキリ
79) ~ 85) はいずれも1~2頭。
- 86) キモンカミキリ
- 87) シナカミキリ
- 88) ハンノアオカミキリ
- 89) シラホシカミキリ

以上普通。

- 90) ヘリグロアオカミキリ
針葉樹伐材木に飛来。3頭。
91) ヘリグロリンゴカミキリ
原型とムナグロ *sericans* と混獲する。
92) ホソキリンゴカミキリ
93) ヒメリンゴカミキリ
92) 93) とともに各1頭
94) クロニセリンゴカミキリ
燈火に1頭飛来
95) チチブニセリンゴカミキリ
2頭のみ

私の採集物は以上95種であるが、私の滞在期間中他の採集者によって採集されたものは以上のほかに次のようなものがある。

- コマクビアカサカミキリ ○キモンハナカミキリ
○チビハナカミキリ ○ホクナハナカミキリ

以上のように7月下旬の短期間で100種を超えるカミキリが見られることは当地の天牛相の底知れぬ豊富さをうかがわせるに充分で、調査次第で今後いくらかでもリストが増えること疑いない。(つづく)

- ヒメクロトラカミキリ ○ヨコヤマトラカミキリ
○ニセヒロウトカミキリ ○トグリシロオビサビカミキリ
○シナノクロフカミキリ ○ハンノキカミキリ

(以上 鈴木義勝氏採集)

- コバネカミキリ ○クロホソコバネカミキリ
○クリイロシラホシカミキリ ○ジュウジクロカミキリ
○カッポウカミキリ (以上 中村俊彦氏採集)
○タケウチホソハナカミキリ (板垣輝彦氏採集)
○カラフトヒゲナガカミキリ ○ハセガワトラカミキリ
○キボンチビカミキリ (以上野村英世氏採集)
○クロサワヘリグロハナカミキリ
○シラホシヒゲナガコバネカミキリ

(以上 某大学生採集)

このうち鈴木氏採集品については日本大学動物研究会会報(No. 7)誌上の目録から引用させていただいた。又中村氏および板垣氏の採集品は私が実際に見たものであるが、野村氏および某大学生採集品は実際に見て確かめてはいない。

備前地区で採集したカミキリムシ

赤 枝 一 弘

本誌のI.14. NO. 4. の美術産、カミキリムシ目録(重井, 林)によると備前地区のカミキリムシは33種で他の地区に比べて極めて少ないので私が採集して未発表のものを少数ではあるがここに発表する。なお2・3の種の同定に当っては青野氏をわずらわした。

1. ノコギリカミキリ
赤磐郡熊山, 21.VI.1955
2. クロカミキリ
標本は紛失したが、西大寺市内にも多い。
3. アカハナカミキリ
赤磐郡高倉山 24.V.1959, 岡山市金山にも多い。
4. クロハナカミキリ
西大寺市金山 ? III. 1953, 本種は松の切株中より蛹を採集し羽化させた。
5. ツマグロハナカミキリ
岡山市金甲山 10.V.1956. 那須敏氏は西大寺市芥子山で採集している。
6. オオヨツスジハナカミキリ
岡山市金山, 27.VI.1954
7. ヤマカミキリ
邑久郡大が島, 3. VII. 1956

8. キスジトラカミキリ
西大寺市山南中学校, ? . V. 1953
9. エグリトラカミキリ
西大寺市奥矢津, 14.V. 1959. 7.V. 1964
10. タケトラカミキリ
西大寺市元町, 1. VII. 1954. ? . VII. 1955
11. ベニカミキリ
西大寺内, 8. V. 1952. 岡山市竜の口, 21.V. 1959
12. ヘリグロベニカミキリ
岡山市金甲山, 14.V. 1958
13. ホタルカミキリ
岡山市竜の口, 2. V. 1965
14. ゴマダラカミキリ
手本に標本はないが各地に多い。
15. マツノマダラカミキリ
最近は見かけないが、以前には多かった。
16. シロスジカミキリ
西大寺市金山, ? . V. 1954 西大寺市晴干山 23. VII. 1954
17. クフカミキリ
西大寺市金山, 11. VII. 1953
18. ヒメヒゲナガカミキリ

- 西大寺市奥矢津, 14.V.1959.7.V.1964
19. ナゴゴマフカミキリ
西大寺市奥矢津, 7.V.1964
20. アトジロサビカミキリ
西大寺市奥矢津, 17.V.1964
21. アトモンサビカミキリ
西大寺市奥矢津, 14.6.1959.17.V.1964
22. マルモンサビカミキリ
西大寺市奥矢津, 14.6.1959. 本種は南部では稀とのことである。
23. キクスイモドキカミキリ
西大寺市奥矢津, 17.V.1954
岡山市金甲山, 3.V.1964
24. ヘリグロリンゴカミキリ

- 赤磐部高倉山, 24.V.1959
25. ホソキリンゴカミキリ
岡山市竜の口, 23.V.1955.7.V.1964
26. ニセリンゴカミキリ
西大寺高校, 15.V.1954
27. キクスイカミキリ
岡山市金甲山, 3.V.1957.3.V.1964
岡山市竜の口, 18.V.1958

以上の他にすてにすむし誌上に発表した当地区の種に次のものがある。ウスバカミキリ, ミドリカミキリ, アオスジカミキリ, キフダラカミキリ, ヘリグロベニカミキリ, ゴマフカミキリ, キイロトラカミキリ, ハイイロヤハズカミキリ, クスベニカミキリ。

おとしぶみ

1965年のクロツバメシジミの記録

| | | | |
|-------------|--------|------|-----------------|
| 1965. 8. 25 | 1 ex | 西大寺市 | 今町 |
| 9. 5 | 1 ♀ | ♀ | 観音院 (木村採集) |
| 9. 23 | 1 ♀ | ♀ | 本町 |
| 10. 17 | 1 ♀ | ♀ | 向州グランド |
| 10. 25 | 21 exs | ♀ | 今町 |
| 10. 25 | 2 ♀ | ♀ | 今町(木村採集) |
| 10. 29 | 1 ex | ♀ | 新町 |
| 11. 2 | 1 ♀ | ♀ | 西大寺高校 (木村採集) |

なおこの日天気よくなったため、西高、今町にて多数目撃した。(那須 敏)

本年採集したジャクガ

本年採集したジャクガの内、手本に標本があり、同定のはっきりしたものを発表する。

1. ウスオエダシヤク
西大寺市河本橋 3.K.1965
2. ウラベニエダシヤク
西大寺市水源池 29.V.1965
3. トビカギバエダシヤク
西大寺市水源池 8.K.1965
4. フトスジエダシヤク
西大寺市水源池 11.K.1965
5. クロフシロエダシヤク
高梁市臥牛山 11.V.1965
6. ヨツメエダシヤク
高梁市臥牛山 11.V.1965
7. キマエアオシヤク
西大寺市河本橋 23.K.18.K.1965

8. クロモンアオシヤク
西大寺市水源池 20.V.18.K.1965
9. ヨツメアオシヤク
西大寺市河本橋 23.K.1965
10. ウスキクロテンヒメシヤク
西大寺市水源池 18.K.1965
11. キトガリヒメシヤク
西大寺市水源池 18.K.1965
12. シロホソスジナミシヤク
高梁市臥牛山 11.V.1965

(赤枝一弘)

(会記)

本年の11月3日の会数昆虫館記念行事としては秋山博志、西伸一郎、両氏の沖繩、奄美、トカラ列島の採集品展示、及びスライドによる採集記の発表があった。標本は全部の整理ができず、蛾の大部分などは展示できなかったが、それでも中型標本箱15箱におさまる見事なものである。目についた2~3の種を上げてみると、蝶ではあちらでは普通種であるが、展翅されたオオゴマダラがずらりと並んだところなど見事であった。またこれは前回行った前田氏の採集品であるが奄美大島のギンモンウスキチュウは少ない記録と思われる。蛾では数は少ないがオキナワルリチラシとか、ヒトリモドキの本州では見られない種が注意をひいた。

中でも甲虫は種類も多く、熱帯系の美しい種や珍種が多い。秋山氏が東京国立科学博物館の中根猛彦氏を直接訪われて、同定を受けたところ、多数の未記録種や、種名のついてない種があったと聞く、次いで膨大なスライドによる説明があり、後会員相互で雑談がはずんだ。

目 次

赤枝一弘： 本年採集した西大寺市のスズメガについて 1

赤枝一弘： 岡山県下のクロツバメシジミの越冬と発生回数について 2

榎本精二： 岡山県の蛾 (8)
 シヤクガ科 アオシヤク亜科 4

赤枝一弘： 備前地区で採集したカミキリムシ 14

(採集記)

那須 敏： 大山採集記 8

水野弘造： 南アルプス採集行メモ (I) 10

(おとしぶみ)

赤枝一弘： 阿哲郡大佐町布瀬でムネアカセンチコガネを採集 7

赤枝一弘： 阿哲郡大佐町布瀬でナカスジシヤチホコ 8

那須 敏： 1965年のクロツバメシジミの記録 15

赤枝一弘： 本年採集したシヤクガ 15

(会 記) 会館記念行事について 15

医 療 法 人

重 井 病 院

倉敷市幸町 TEL 代表 ☎ 3655